

学校をつくろう！通信



第146号

学校の役割

その 124

もう25年近く前のことになりますが、この通信に「琉歌の世界」という僕が書いていたコラムがありました。高校の校長を辞めて沖縄に移り住む前の1年間、沖縄移住後の珊瑚舎開校の準備をしている3年間、珊瑚舎開校後も何回か掲載していました。また、書こうと思っているうちに随分の時間が経ってしまいました。ちょっとした「琉歌の世界」の再開です。

新校舎に引っ越ししたら三つの夜学校を開講することにしました。一つは那覇の珊瑚舎で2004年から開講している夜間中学校、二つ目が僕1人で講師を勤める外国籍の方のための一回100円の1コイン日本語学校、楽しみにしているのですが通学手段がないため通えない方ばかりで未だ開講していません。三つ目は東京の中目黒で開講した「知れば知るほどオキナワ！」のキャッチコピーで始めた結塾・花綵（はなづな）でした。ヤマトンチュに沖縄を知つてもらうためには花の都・東京にこっちから出かけて行かなければならぬと思い、自費で開講しましたが沖縄から参加して頂く講師派遣費や高い家賃が本体の珊瑚舎の運営に影響を与えかねない状況が頭をもたげ始めたので3年で終了しました。僕は琉歌講座と沖縄史講座を担当していましたが未だお付き合いが続いている受講生もいます。前置きが長くなりました。この結塾・花綵を新校舎を使って再度開講しました。僕は「ナンチャッテ！琉歌」講座を担当しています。楽しいです。

琉歌は8・8・8・6の4句30音のウチナ一口で詠われる沖縄の短歌です。先日、ナンチャッテ！を地で行くようなヤマトウロの8・8・8・6を受講生に作ってもらいました。何首か紹介します。

・真夜中に目覚め 夜の空仰ぐ

オリオンのベルト 北に光る

・天と地のまにま 月日星めぐる

ぬちの歌うたえ 三光鳥

・珈琲片手に 薄れゆく空に

明け星見上げて 希望の朝

・珊瑚舎の下で 北極星見つめ

思い馳せ光る 十の瞳

・鴨川の夕べ すれ違う人は

煙草くゆらして 吐息白く

・月夜の灯火 たよりに学ばん
いにしえ 古の人の たくましさよ

このヤマトウロの琉歌を珊瑚舎のスーパー講師・

タケちゃんにウチナ一口に翻訳(案)して頂きました。

・真夜中に目覚め 仰ぎ見る空に

くがにみついぶし にし ひちゃてい
黄金三つ星や 北に光て

・天と地のまにま ヌチの歌うたれ
ついちふいぶしどうぬ ぬみうた

月日星鳥の 春の御歌

・固茶手に持ちよて 薄れゆく空に

明ける星見上げ 望む世界報

・珊瑚舎の下だう 子の方星見ちよて

思い光らする 十の眼

・タベの鴨川の すれ違う人や

煙草くゆらちよて 息も白く

・月と螢火の 灯火ゆ頼て

んかしまなび ふいとうぬ ちぬざ
昔学びたる 人の知能才

琉歌は歌うために作られる短歌です。同じ琉歌を様々な節で歌うことができます。8・8・8・6の4句それぞれが5音と3音の組み合わせで作るのが原則です。タケちゃんが三線を弾いて同じ琉歌を「かぎやで風」の節で歌ったり、別の節でも歌ってもらいました。一同、変身琉歌に「ウオ——ツ！」の拍手喝采。（ほ）

がじゅまる しんかめちゃー



(生徒・学生のコーナーです)

「とうんじーあしひ」

初等部 照屋 理乃

昨年のとうんじーあしひは、とても楽しかったです。一番楽しかったのは、プレゼントこうかんで、だれになにがあたるのか、わからないので、とてもどきどきしました。次に楽しかったのは、クイズです。いろいろな問題が出されて、ざんねんながら初めのほうで負けてしまったけれど、来年こそ勝つぞ、と思えたのでよかったです。

ほかにも、キントレラやあかずきん(?)や歌などの出し物がとてもおもしろくて、笑えました。

自分のグループのパントマイムの時には、少しきんちょうしましたが、練習どおりにやれてよかったです。今までのじゅんびも、ちゃんと実をむすび、会場もいろどられ、お客様も楽しそうで、とてもうれしかったです。

コロナで次々と祭りやパーティーなどが中止になって、今年のトウンジーアシビは、むずかしいかなあと思っていましたが、ちゃんとかいさいできたので、よかったです。

とうんじーあしひもおわって、かたづけの時も楽しそうに仕事をしている人が多かったので、やっぱりみんなおもしろかったんだな、と思いました。

コロナウィルスで、かいさいがむずかしかったけど、とってもおもしろくて中止しないでよかったです、とやはりあらためて思いました。

今年はアメリカの基地でコロナ感染が広がったあとに、沖縄県内でも急に感染が広がって1000人ごえになってしまったけれど、今年も珊瑚舎でかい

さいしてほしいです。そのために、かんせんたいさくをしっかりとって、12月までにコロナのかんせん者をへらしたいです。だから、今年もがんばろうと思います。



新春！朗読バトル



珊瑚舎スコーレの新年は「新春朗読バトル」で始まります。初顔合わせには「自作の2作品を持ちよる！」というお約束。この自作品で1回戦、2回戦と挑みます。負けても敗者復活戦で残ることが出来るので最後まで気を抜くことはできません。準決勝は事務局が用意した作品を、決勝では会場からお題をもらい即興で作った作品を朗読します。自分の言葉がいかに聞き手に伝わるか。朗読はもちろん選ぶ言葉や内容も勝敗を左右します。優勝者には「珊瑚舎杯」と「チャンピオンバナナ」が贈られます。今年からはさらに、ホッシーからスペシャルプレゼントのキャップ(Sマーク付き)が贈られました。

今年初のお題は「トイレ」(詳しくはHPをご覧ください)。このお題に挑んだのは決勝に勝ち進んだ初等部のイツキと中等部のアオイ。見事、チャンピ

オンの座に輝いたのは、昨年度の屈辱を果たしたアオイでした。2人の即興作品を紹介いたします。
決勝戦 お題『トイレ』

「トイレ」 初等部 内田 樹

僕には

トイレにかけがえのない思い入れがある

それは

人間たちみんなに共通することだ

それはなにかって？

そう。自分たちの尿を受け止め、糞を受け止め、

いつも支えてくれている存在なのだ

僕たち人間はいつもトイレに支えられている

トイレがあるから生きていける

そう思って

いつまでもトイレに感謝しながら

生きていこうと思う



「トイレ」

中等部 折尾 葵

コツコツと

歩く足音が聞こえてくる

何を探しているのだろう

どんどん

こちらに近づいてくる

その先には 何があるのだろう

もうすぐそばまで来た

コンコン

白いドアをノックした

*珊瑚舎スコーレ HP でも紹介をしていますので、ご覧ください。

ふくぎのふあー



(講師・スタッフのコーナーです)

『うびらじに あつたに うみゆらん
(思いがけない 急に 思いも依らない)』

大城 聰

中等部・高等部うちな一口担当

はいさい とうじたる 我(わん)や ワンでい言
(い)ちん 犬(ヰー)の一あいびらんしが戌年(ヰんぬ
とうし)ぬ生(う)まりやいびーる。大城(うふぐすく)
聰でい言(い)ちょーいびん。ゆたさる事(ぐとう)う
にげーさびら。読(ゆ)みかんていぬ いふえーわかいい
かんてい さびーるはじ やいびしが くねーてい
うたびみ しぇーびり。

ぬうーんち 我(わん)が うぬ『ふくぎのふあー』
ぬコーナーかい 飛(とう)んじてい ちゃがやーんで
い 思(うむ)みせーる はじやいびしが うりん
又 うみゆらん 事務局から来月ぬ原稿依頼 受(う)
きてい断(くとう)わい かんていし 物(むの一)うま
ーん 引(ひ)ち受(う)きたる事(くとう)やいびーん。
いふえー我 なりゆちから うんぬきやびら。我ねー
なま中等部とう高等部ぬ生徒達(しいとうぬぢゃー)
とうウチナ一口ぬ講師そおーいびーる城間(ぐすべ
ま)ぬ やよいさんとう同級生(ゆぬちるみー)なやー
い。ていがねーそおる者(むん)やいびーん。

日頃(ひーじ)や 与那原町んかい有いびーる介護
老人保健施設んじ お年寄り(うとすい)ぬ皆さん(ち
ゅぬぢゃー)とうんじやくさい する業(わじゅ)そー
いびーん。

くじゅんちゅぬある日(ふいー)タイトルんかい有る事ぬあいびーたん。やいびーん。うぬタイトル通(どう)いぬ事!!

携帯電話ぬ留守電なかい城間やよいさんからぬメッセージぬ有いびーたん。折り返し電話掛きてい話聞(ち)ちんじるんせー”珊瑚舎スコーレ“のウチナ一口の講師のていがねーぬ話やいびーたん。うみゆらん話に我ねーどうまんぎていうみやみーやいびたしが先輩(しいじやかた)ぬ言葉(くとうば)なかい合図(えーじ)ぬあるえだーどないんどー後輩達(うっとぬぢやー)んかい譲(ゆじい)てい教(なら)しわどうやんどー。でい言らつたる事思(う)び出(ん)じやさびたん。五十(ぐじゅう)ぬ歳(どうし)ん重(かさ)ねてい何(ぬー)がら残(ぬく)さねーならん。生(い)ちちようたる証(あとうかた)残さんでえならん。うぬふじな事思(うむ)てい。

あん言いーねーうふむにーでい言ち笑りーるはじやいびーしがうんな思(うむ)いん有って我がわかいる分(ぶん)習(なーら)す事ぬあれーていがねーしいんだなーんでい思てていがねーする事んかいないびたん。やいびーしが講師ぬていがねーんでいいいる業や初みてはどうやいびーくとう。ぬーからしかきてしむらわからん。城間さんがむちかきたしが昔話ぬ「桃太郎」ゆウチナ一口さーに話し聞(ち)かちきれーんでいぬ事やいびーたん。城間さんぬ言る事に『あんた小学校3年の時に皆の前で話していたさー』んでいいいる事やいびーたん。くうさいにぬ事(くとう)どうやいびー事(くとう)半分以上けー忘(わ)しりていやたがーやーあらんたがやーやいびたしが城間さんが言るむんぬ当(あた)とおーえさにんち。「桃太郎」ぬ昔話からしかかる事かいなやびたん。

んちゅやなまん続(ちじ)ちよてい広(ひる)まとおるコロナぬ出(ん)じー始(はじ)まいなでい講師ぬていがねーとうゆぬまじゅん生徒達や皆マスクかきていぬ授業どうやいびーくとう顔(ちら)とう名前(のーじ)ぬ当たらん覚(うびー)かんていーしよーいやあらんいっぺーさっぺーやいびーたん。

「桃太郎」ぬ昔話 我が読でい後から中等部ぬ生徒達んかい紙芝居作(ちゅく)ていんだなーんち仕掛け(しかき)たしえしむしが絵(いー)描(か)ちゅる業ぬ時間(ひま)かかてい思(うむ)いぬふかめえーんかいあがかん生徒達がどうくる読(ゆ)でい皆んかいひるーする事ぬないびらんたしが漸(ようや)く今年(くとうし)読むる為(たみ)ぬ稽古(ちーく)する事なでいやがてい実(みー)ないるぐとおいびーん。

生徒達がちかいるウチナ一口聞ちいっぺーゆーあびとおーさあーんちふくらそおいびーん。書(か)ぢやがちーんぬーがきーがらわからんないとういんちかみんならんなどおーねーさび一事うぬひんし我ちびぬねーん話や終(うわ)れーやーんちうむやびーん。

とうじゅみにくうぬタイトルぬ事かきていとうじゅみれーやんちうむとおーいびーん。生(いち)ちょーる間(えーだ)うびらじやたいあつたにやたいうみゆらんくとうぬ繰(げ)り返(け)し返(げ)し起(う)くりーる事(くとう)んでいうまりやびーん。うりからん又ぬーぬが起(うく)りゆらわかやびらんしが良(い)い事(くとう)願(にが)っていけーやんちうむとおーいびーん。ぐぶりーさびたん。にいふえーでーびる。



～山がんまりだより～

子どもがんまり



「子どもがんまり」に参加して

名嘉真 昭之介（参加保護者）

この度、はじめて『子どもがんまり』に参加させていただきました。珊瑚舎スコールの事前情報が全く無かった私は、参加の申込みをした妻から「山がんまりに参加する」と最初に聞いた時「んっ、がんまり？何で？」とすぐに「がんまり」に反応してしまいました。沖縄で育ったので言葉の意味は知っていましたが、正直、あまりいい意味で使ったことは無かったので「山の中で何か悪いことでもさせられるのかな？」と疑念を抱くと同時に、何か童心に返ったようなワクワクした気持ちも感じていました。

その後も、あえて情報を入れないまま会場である「山がんまり」に到着した瞬間、イメージ通り、いやそれ以上に、大人の私も思わずニヤッとする楽しい遊び場が広がっていました。

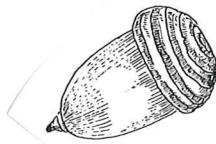
そして、この「山がんまり」には、気をつけないとケガをしそうな「ちょっと危険な遊び場」が結構あって、ついつい我が子に「〇〇しちゃダメだよっ」と注意しそうになる訳ですが、その度にこの施設のネーミングに納得させられました。笑

子どもは遊びの中で多くの事を学びます。生きていく上で必要な「知恵」は、机上の学び以上に、遊びの中で培われていくものだと思います。多くの大人（親）は、これまでの人生経験からそれを理解しているはずですが、いつの間にか、それとは真逆の事を子ども達（我が子）にさせてしまっているのではないかでしょうか。私自身、その中の一人だと痛感しています…

その日は大学生のボランティアスタッフの方々が昆虫に関する講義をしてくれて、学校の先生の話は

なかなか聞けない我が子も興味津々に耳を傾けていました。また、その後の自由時間には、思いつきり子ども達とも遊んでくれて、どの子もみんないい表情をして思い思いに遊び込んでいたのが印象的でした。

あっという間に時間が過ぎてしまい、まだ遊びたい！とごねる我が子を説得して帰路につきましたが、親の私達の方が、生き生きとした我が子の様子をもっと見ていたい！というのが正直な気持ちでした。本当にありがとうございました。また機会がありましたらぜひ参加させてください。



「子どもがんまり 感想(ゲッチョゼミ)」

仲間 理世

こんにちは。沖縄大学こども文化学科3年次のゲッチョゼミの仲間です。こども文化学科は、将来小学校の教師を目指している学生が所属している学科です。私たちゲッチョゼミは特に理科や自然が好きな学生が集まって、サメの歯を探しにフィールドワークをしたりチョウを捕まえに行ったりしています。

11月28日、ゲッチョゼミはガンマリにおじやまして、2つの出前授業をさせてもらいました。1つ目は虫の授業です。最初は子どもたちが喜んでくれるか不安でしたが、チョウのクイズではみんなが手を上げて答えてくれたり、授業を真剣にして楽しそうに聞いていて、授業している側も楽しかったです。

授業をしていて、私たちが知らなかった豆知識や虫の名前を答えてくれる子どももいて、子ども達から出た解答を広げながら展開していく授業を行えるようになりたいと思いました。鱗粉転写では、みんな上手に羽の形をとって、「みてみて～！」とはしゃいでいる様子が印象的です。保護者の方からも歓声があがったのもとても嬉しかったです。

2つ目はうんこの授業です。この授業はゲッチョゼミみんながやりたくて仕方がなかった授業です。授業の練習で、ゼミの時間にうんこキーholダーを

作った時はとても興奮しました。実際にガンマリでうんこキーホルダーを作るよと言った時に、「汚い～」「やだ～」と言う子もいましたが、一緒に作業を進めていくうちに「このうんちで作る！」と興味深々になって活動してくれました。子どもの興味や関心を引き「やってみたい！」「学びたい！」と思うような授業を作れるようになりたいです。ガンマリで授業をするという貴重な経験ができてよかったです。



(チョウとガの違いは？)



(チョウの羽を写し取ってみよう！)



(生き物クイズ～うんこ編)

★ ★ 事務局便り ★ ★

★12月の年末パーティー「とうんじーあしひ」。昨年度、会場は生徒講師のみ。その他はオンライン参加という形で行われました。しかし今年度は沖縄の感染者数が低かったため、参加人数を限り感染防止対策をしっかりとした上で、久し振りに一品持ち寄りパーティーとなりました。テーブルを色とりどりに飾る品々に、生徒だけではなく来場の皆さんも楽しそうでした。

★新春恒例の「朗読バトル」。今年の決勝は初等部と中等部の熱戦でした。何の手掛かりもない聞き手は朗読者の朗読、世界観、言葉が作り出す想像の世界に耳を傾けます。相手に届く言葉を常に意識する大切さをみんなが楽しんだひと時でした。

★年明けの感染数の激増で珊瑚舎でも分散登校となりました。半分は対面授業、半分はオンライン授業のハイブリット形式です。人は人と出会って物事を考え、世界を広げていくものです。本来ならば対面で一緒に授業を作りたいのですが、そもそも言つていられない状況です。これからますますこういった形をとらざるを得ない状況が出てくるかもしれません。充実した学びの場をつくるため、工夫をしようねと生徒達と話をしています。

★ ★ ★

●今年度(12月1日～1月31日)寄付・カンパを頂いた方々
石田みどり鹿襟文子岡村健照本祥敬石野裕子市野寿子大城喜春
小渡律子北上田登久子照本祥敬当山幸江長嶺由紀子真津昭夫山
田道子与儀勝子与那覇晴海湯本貴和長美枝子矢崎智草尾崎せき
三枝菜美子松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子下地孝
横山真由美西山哲平智海竹内新丸谷彰内弘真松茂良米子新垣
良宏新垣由美子ワフリング・ジジ菊入直代平良次子藤原良子加藤澄子
友寄和子安里桂子泉恵子屋富祖樹屋富祖昌子太田明夫名嘉光
夫神谷育雄諸見里安信閑正一米山光儀花城和子仲村宮子野村佳
雄安田圭太郎先名晴生須田惠川西康裕知念敏則奥本さつみ上泉
靖子赤澤龍太郎三上幸子鈴木和男赤井朱美高橋泰子屋慶名つる
子喜屋武規子伊佐勝子

発行者：珊瑚舎スコーレ

事務局 遠藤知子

住 所：〒901-1414 南城市佐敷津波古 509-4

Tel : 098-975-7781 Fax : 098-975-7783

Mail : info@sangosya.com

URL : <https://sangosya.com>